



「第14回 啄木・雪あかりの町・くしろ」に参加して

山崎 景子 (釧路支部)

平成28年1月21日に開催された「第14回 啄木・雪あかりの町・くしろ」に、釧路支部として参加しました。

このお祭りは、石川啄木が新聞記者として釧路の駅に降り立った明治41年1月21日を記念日として大切にしつつ、町にろうそくを灯し当時を偲ぶというもので、地域市民が中心となって毎年開催されています。

これまでも紙袋ランタンの作成や会場でのお手伝いなどに参加して参りましたが、今回はより積極的に参加しようということで、「模型展示」と、ワインとチーズを楽しむ「啄木・けんちく・バル」を開催しました。

模型の展示は、教会を中心に建物を配置した「小さい町」を表現。



模型展示

準備期間が短く、十分な作り込みができませんでしたが、極寒の屋外会場では教会のスタンドグラスや窓から漏れる光が温かく感じられるようで、来場者には「綺麗ね～」という感想をいただきました。

一方、「啄木・けんちく・バル」では、「普段の生活では触れることの少ない素敵な家具や間接照明の雰囲気を訪れる皆さんに体感してもらいたい」という私たちの思いに賛同いただいた、支部賛助会員である地元の家具店、家具メーカー、照明器具メーカーのご協力を得ての会場づくりとなりました。



バル会場の様子

会場では北海道産のワインやソフトドリンクを販売すると共に、ホクレンの「地域牛乳乳製品需要拡大事業」の一環として、チーズやプリン、ヨーグルトなど道東産の乳製品を無料で提供しました。

今回は支部の参加について地元新聞に取り上げられたこともあり、多くの方々が来場くださったと共に「照明ってとても大切なんですね」、「こんな家具が欲しいです」、「ワインとチーズなんてお洒落ですね～」などの言葉をかけていただき、好評のうちに終えることができました。メニューに載せた建築相談（無料）への声かけが無かったことは少し残念でしたが、今後も引き続き地域イベントに参加するなど、交流の機会を増やすことで、建築士をより身近に感じてもらえるような活動ができればと考えています。

住教育出張講座
美幌高校の取り組み

加藤 幸恵 (北見支部)

昨年11月、美幌高校にて家庭科授業の科目として、建築士による住教育出張講座を担当させて頂きました。美幌高校は、数年前に普通科と農業科が一つになり、午前と午後に分かれて、約100名という多くの生徒数でした。

女性委員会の方からは、近隣で講師が集まらなければ、他支部からの応援をとの事でしたが、さすが志高い北見支部メンバー、合わせて網走、斜里からも仕事の調整をつけ、多くの講師が意欲的に参加しました。旭川支部からも講義講師として心強い応援もあり、無事に終了することが出来ました。

普段の仕事では、「10代の生徒さんに間取りのノウハウを教える」という経験も全く無く不慣れで、生徒さんより緊張していたと思いますが、私自身もはるか昔の若い頃は、色々な方々から建築の術を教えて頂いてきた事を考えると、その時の出来なかった恩返しと、これから先の将来のある子供たちへ、建築に少しでも興味を持って貰えたら、少しの社会貢献になるのではないかと考えています。

授業終了後は、農業科の生徒さんの作った、ハンバーガーやホットドック、長芋などを講師陣が全て買占め、家族にお土産が出来たと喜ぶ顔は、すっかり講師ではなく、ただの主婦(?)の顔になっていました。



講師陣